

《2005年4月例会報告》

【日 時】2005年4月15日（金）19:00～21:00

【会 場】筑波大学附属高校3F会議室→ルン（～2:00頃）

【参加者（会員）】浅野智嗣（日本サポーター協会&ELGOLAZO） 安藤裕一（インターナショナルSOSジャパン） 上間匠（FC東京） 宇都宮徹彦（フリー） 鈴木崇正（NECメディアプロダクツ） 田中理恵（日本能率協会総合研究所） 土谷享（KOSUGE1-16） 徳田仁（(株)セリエ） 中塚義実（筑波大学附属高校） 長谷川雅久（立教大3年） 藤田稔人（レフェリーカレッジ） 宮崎雄司（サッカーマニア編集長） 室田真人（NPO法人九曜クラブ／中央大学3年） 両角晶仁（日本スポーツ振興センター） 依藤正次（横浜スポーツコミュニケーションズ）

【参加者（未会員）】宇都宮みちこ（サッカーファン） 尾崎靖則（(株)セリエ吉祥寺営業所勤務） 折井貴恵（公務員） 加藤昌一（一サッカーファン） 桑原博行（早大／清水サポーター） 齋藤なな子（お茶の水女子大3年） 齊藤律（東光(株)／清水エスパルスファン） 戸村賢一（フリーライター） 長岡樹（筑波大学附属中学教諭） 濱田雄太（筑波大学附属高校非常勤講師） 吉原幸伸（藤化成株式会社／名古屋サポーター）

【2次会のみ参加者】村林裕（FC東京） 両角晶仁（toto）

【テーマ】ワールドカップ予選アウェー報告－イラン紀行（仮題）

【演 者】宇都宮徹彦（フリー）、鈴木崇正（NECメディアプロダクツ）、徳田仁（セリエ）

【報告書作成者】濱田雄太

注) 参加者は、所属や肩書きを離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

テヘラン日記・総集編－3.25.イラン戦を振り返って

宇都宮徹彦(フリー)・徳田仁((株)セリエ)・鈴木崇正(NECメディアプロダクツ)

<目次>

- I. テヘラン日記・総集編：宇都宮徹彦
- II. イラン戦観戦ツアー体験記（企画した本人が映像とともに語る）：徳田仁
- III. アジア最終予選とイラン代表：鈴木崇正
- IV. ディスカッション

I. テヘラン日記・総集編：宇都宮徹彦

■イランという国について

イラン・イスラム共和国

人口：6,892万人

面積：1,648,000平方*

首都：テヘラン（645.1万人）

民族：ペルシャ人 46%

アゼルバイジャン人

クルド人など

言語：ペルシャ語（公用語）

アゼルバイジャン語

宗教：イスラム教シーア派 93%

イランの人々は、3つの暦を持つ。すなわち、太陰ヒジュラ暦、太陽ヒジュラ暦、そして西暦である。このうち太陽ヒジュラ暦は、イラン独特の暦で春分の日である3月21日を元旦とする。ノウルーズ(新しい日)と呼ばれるイランの正月休みは、13日間も続き、その間にさまざまな行事を家族で祝うのだという。機内で言葉を交わした、出稼ぎイラン人の表情が終始緩みっぱなしだったのも、大いにうなずける。(スポーツナビより)

【解説】

イランの特殊性を考えると、まず、その地理的条件を考える必要がある。トルクメニスタン、アフガニスタン、パキスタン、イラク、トルコ、アルメニア、アゼルバイジャンと陸地で国境を接し、さらにペルシャ湾の向こう側にはオマーン、UAE、カタール、バーレーン、クウェートがある。これだけ多くの国々と接しながら、イスラム教シーア派を国教とするアーリア系民族として独自の国家を永続させてきたのだから、政治的には常に緊張を強いられてきたことは言うまでもない(アメリカとは、79年のイスラム革命以来、ずっと敵対関係にある)。

歴史的には、輝かしいペルシャ文明を誇りながらも、同じイスラム教徒であるアラブ、トルコに侵略・支配されてきたトラウマがあり、妙なプライドの高さは21世紀になっても国民のメンタリティに色濃く反映されている(ように思う)。

■テヘランという街

全人口の10パーセント、676万人が暮らすテヘランは、なかなか巨大な都市である。しかし、欧州の都市のようなトラムはなく、バスも行き先がペルシャ文字で皆目見当もつかないので、必然的にタクシーに頼ることになる。アザディ・スタジアムからタクシーで中心街に向かい、そこで昼食。さらに歩いて、5年前に中国からの技術協力で開通した地下鉄に乗ってバザールを目指す。テヘランの観光名所のひとつであるバザールは、しかし、ノウルーズのためにどの店も閉まっていて、まるで廃墟のようになっていた。何とも空振り続きの一日である。(スポーツナビより)

【解説】

中東というと、どこまでも続く砂漠や砂丘を日本人はイメージしがちだ。だがイランは、国土の大半が標高500~1500メートルの乾燥高原で占められており、他の中東諸国の風景とは大きく異なる。首都・テヘランに関しては、比較的水も豊富で、緑も濃い。

また、イスラム教は偶像崇拝を禁じているが、テヘランではかなり人物画を見かけた。特に、革命のシンボルとなった宗教指導者の故ホメイニ師と、その後継者であるハメネイ師の肖像画は、ホテルのロビーやハンバーガーショップでも見ることができる。

■テヘランでの日本代表

話は前後するが、今日の日本代表の練習では、テヘラン在住の邦人を対象に完全公開としたため、練習後にサインを求める一部ファンが選手に殺到し、かつてなく混乱を極めることとなった。特にジーコ監督が引き上げる時には、周囲は黒山の人だかり。一瞬とはいえ、セキュリティ面で非常に危うい状態にあったのは間違いない。

(中略) いずれにせよ、大事に至らなかったのは何よりだが、国外での公開練習のあり方については、日本協会として十分に再考の余地はあるだろう。少なくとも、特定の警備のプロを置かず、ビニールテープで立ち入り禁止とする日本の常識が、国外では何ら抑止力とはならないことが、今回の一件で明らかになったはずだ。(スポーツナビより)

【解説】

直前の代表練習で、中田英と福西が「口論」したことについては、マスコミがことさら言及していたこともあり、ここでは多くを語るまでもないだろう。あくまでも現場レベルの話をするならば、この「一般公開練習」は、日本協会の仕切りが「対メディア」に対しても「対現地法人」に対しても、あまりにも不手際が多かったといわざるを得なかったことを指摘しておきたい。親善試合ならいざ知らず、ワールドカップ出場を懸けた一戦を目前にした練習なのだ。その警備を協会のスタッフだけで行なうというのは、どう考えても無謀である。実際、練習後の混乱の中で、代表選手やジーコ監督が何らかのアクシデントを負う危険性はかなりあったと考える。いささか大げさに思われるかもしれないが、それでも私は、現地の警察、あるいは軍隊と協力体制をとってセキュリティの保全に当たるべきではなかったかと考える。

■イランのサポーター気質

あくまでも個人的な実感として述べるならば、アラブ人は(特に石油産出国の人間は)どこか横柄。トルコ人は親切だけど、どこか狡猾(こうかつ)さが見え隠れしている。では、イラン人はどうか。ズバリ「優しさ」なのである。

確かに古代ペルシャの栄光を引きずっていたり、こすい商売をしていたりするのだけれど、それでもイラン人の場合、ついどこかで優しさがにじみ出てしまう。今日出会った中年のタクシー運転手などは、後ろめたい表情を隠し切れずに、それでも必死で値段を吊り上げようとしている仕草が何とも健気で、かえって好感を抱いてしまったほどだ。

むしろ昨日、今日の経験で、イランの人々が恐ろしくオーガナイズすることが苦手であることを身をもって理解できたのは、案外収穫だったかもしれない。日本はもちろん、東欧の辺境国でも考えられないような事態が、この国では当たり前のように起こり得る。今はただ、明日の試合がつつがなく行われることを願うばかりだ。(スポーツナビより)

【解説】

個人的には、今回の取材でイランの人々に対して、私はますます親近感を持つようになった。もちろん、彼らのいい加減さ、管理能力のなさについては、幾らでも糾弾できるのだが、しかしそれでも、私は彼らを憎むことはできない。試合自体は敗れてしまったが、それでも私は、本当にテヘランを訪れて本当にいい経験をさせていただいたと思う。

おりしも昨今、東アジア諸国の対日感情の硬化がニュースとなっている。もちろんイランにとって、

われわれ日本は「敵」であったわけだが、それはあくまでも純粋な「90分のゲームの中での敵」であって、それ以上でもそれ以下でもない、極めて健全でフェアな対応をしてくれたと思う。一部で「日本人サポーターが負傷した」という報道もあった。非常に残念なことではあるが、しかし私としては、この不幸な出来事が「憎しみによる必然的な事件」であるとは思えない。むしろ、5人もの死者が出るような環境にあって「よくまあ、この程度で済んだもんだ」とさえ思っている。勘違いしてはいけない、アジアでのアウエー戦とは、そうした危険性をはらんでいるのだ。アウエー戦のツアーは「安全なレジャー」では決してない。あまり好きな言葉ではないが、あくまでも「自己責任」の世界なのである。

■アザディ・スタジアム+試合当日のスタンド

【解説】

このあたりの描写については、むしろセリエの徳田さんのプレゼンに譲ったほうが、より説得力があるだろう。以下、私の個人的な感想を述べて、総括としたい。

今回のテヘランのアウエー戦に関しては「男ばかりの12万人のサポーター」とか「究極のアウエー戦」とか「女性はスタジアムには入れない?」といった、おどろおどろしい事前情報があった。にもかかわらず、これだけ(500人以上とも言われる)日本サポーターがテヘランを訪れたのは、我が国のサッカーの歴史において、極めて画期的なことではなかったか。

もちろん、サポーター同様、われわれ報道陣も、現地における「非常識な常識」に何度となく面食らい、そのたびに右往左往したものである。それでも、人間とは不思議なもので、何とかしてしまうものなのである。私自身、久々に緊急時における自身の適応能力を実感した次第。これこそが、アジアにおけるアウエー戦の醍醐味なのだろう。

不幸にして(?)、2002年大会が予選免除だったわれわれにとって、やはりこのアジア予選は艱難辛苦な物語であってほしい。少なくとも私は、そう思う。その艱難辛苦を、代表同様、われわれファンやメディアも体験することによって、さらなる連帯感と闘争心、そして対戦相手への尊敬の念が生まれるのではないか。

その意味で私は、6月のアウエー2連戦を非常に楽しみにしている——で、どうなるんでしょうね、北朝鮮戦。

II. イラン戦観戦ツアー体験記 (企画した本人が映像とともに語る) : 徳田仁

ビデオを見ながらの解説(約30分)。

III. アジア最終予選とイラン代表 : 鈴木崇正

■洗練されたプレー

3月25日、テヘランで行われたワールドカップ・ドイツ大会のアジア最終予選、イラン対日本戦の“弾丸ツアー”に参加した。現地の様子はすでに宇都宮さんと徳田さんから詳細報告があったとおりだ。私は現地で実感したイラン代表チームの変わりようについてお話したい。

今回の試合で、日本に2-1で快勝したイランチームに「非常にスマート」な印象をもった。試合の進め方も、選手一人ひとりのスタイルも、泥臭いところが少なくなった。もともとあった高い技術やフィジカルの強さに、ヨーロッパ的な洗練されたスタイルが加わった印象だ。すでにビッグネームであるダエイやマハダビキアはもとより、2点を取ったハシュミアン、鋭いドリブルのカリミ、中盤

の底のネクナム、右サイドのカエビなどは際立った才能を見せし、ドイツでプレーするザンディにはエレガントささえ感じた。

■勝たずに予選を突破した 97 年

鈴木は書籍の編集やインターネットのホームページ制作でサッカーにかかわっている。最近、アジア最終予選に関する本を編集したばかりなのだが、過去の記録を調べるうち、イラン代表の戦いに興味をもった。

97 年 11 月 16 日、マレーシアのジョホールバルでのプレーオフに勝った日本は、初めてワールドカップ本大会への出場を決めた。日本中が喜びに沸き立ったこの試合の相手がイランだった。日本に敗れたイランは、ワールドカップへの最後の 1 枚のチケットを賭けてオーストラリアとのプレーオフに回ることになる。

まずテヘランで 1 - 1 で引き分けたイランは、敵地メルボルンで 0 - 2 の劣勢から驚異的な粘りで追いつき、2 - 2 の引き分けに持ち込んだ。トータル 3 - 3 のスコアながら、「アウェーゴール 2 倍ルール」により、イランがフランスへの出場権を獲得するのである。

実はイランは、日本と対戦する前の A 組の最後の 3 試合は 1 分け 2 敗で、A 組の首位の座から転がり落ちて日本とのプレーオフに回った (A 組首位でフランス行きを決めたのはサウジアラビア)。そして日本との死闘は延長戦の末に負け、オーストラリアとは 2 引き分けで、アウェーゴール・ルールでフランス行き……。

つまりこのときのイランは、ワールドカップ予選の最後の 6 試合に勝っていないのに、ワールドカップ出場を決めたのだ。ワールドカップ予選の歴史は詳しくないが、おそらくこのイランのようなケースは世界中を見渡しても珍しいのではないか。

■ 8 万人のアウェー状態、0 - 2 の劣勢……

そして、私たちが記憶している当時のイラン代表は、ダエイ、アジジ、バゲリをはじめとした欧州で活躍する優れた選手を揃えていることに加えて、個性的な選手たちが非常に現実的で老獪な試合運びをした。

その典型は、最終戦のオーストラリアとのプレーオフ第 2 戦 (メルボルン) に表れている。

(以下、編集 VTR 参照しながら)

まず、前半はオーストラリアの猛攻で、イランは完全な守勢に回る。すぐにオーストラリアが先制しないのが不思議なほど一方的な展開だったが、オーストラリアの先制は前半 31 分。前半イランのシュートは可能性の少ない 1 本のみだった。

後半立ち上がりの 2 分に、オーストラリアが追加点をあげ 2 - 0 となって、8 万を超える大観衆は興奮に包まれる。ホームチームが圧倒的な攻勢の中で 2 点をリードすれば、地元の大観衆がもうワールドカップ行きを決めたような雰囲気になるのも無理はない。

しかしこのゴール後、なかなか試合が再開されない。ゴールの瞬間には明らかにしっかりと張られていたゴールネットが、なぜか外れてしまったのだ。これによって試合は 5 分以上も中断する。ワールドカップ予選のような重要な国際試合でネットがポストやバーから外れるなど、通常では考えにくいことだ。誰かが試合のペースを変えようと故意にやったのなら別だが……。

■試合の流れを変えたアベドザデの「演技」

その後試合は、イランにまったくチャンスがないまま進む。

後半 25 分に転機が訪れる。イランドFの裏に出たボールにオーストラリアFWキューエルが突っ込むが、イランGKアベドザデが前に出てクリア。この直後キューエルとアベドザデが軽く接触した。しかし大げさに倒れて主審にアピールするアベドザデ。主審はキューエルに警告を与えた。スロービデオで見る限り、キューエルにぶつかりに行っているのはむしろアベドザデのほうで、キューエルにはまったく罪はない。19歳のストライカーはナイーブすぎた。

この警告後、オーストラリアのリズムが狂い始める。

28分、アジジのダイレクトパスを受けたマハダビキアがオーストラリアDF裏に抜け出し、最初のビッグチャンス。しかしシュートはGKの正面をつく。続く 30分、同じような形で今度はアジジが抜け出し、最後はバゲリが決めてイランが1点を返す。浮き足立つオーストラリア・イレブン。そして 34分、ダエイのスルーパスに走り込んだアジジがGKの出際を冷静に決めてついに2-2。イランは実に3本のシュートで2得点をあげた。

■老獪なイランの試合運び

この後、終了までのイランの試合運びは、いい言い方をすれば「サッカーをよく知っている」、悪い言い方をすれば「非常に見苦しい」ものだった。実況を担当したNHKのアナウンサーと解説者も「いやらしい」「小賢しい」という言葉を連発してイランを評した。

相手シュートに飛び込んだDFパシャルザデが寝たまま起き上がろうとせず、タンカで運び出されるが再開後すぐに元気よくピッチに入る。交代を告げられたMFタハミがピッチを去る前に座り込んで靴紐を結び直す。GKアベドザデはゴールキックを自軍ベンチに向けて蹴り、ベンチの控え選手がこれをベンチ裏に出してしまう。スローインは投げる前に必ずスロワーを替える……。

考えられる限りの時間稼ぎ、相手をじらす所作、相手に警告を与えるような巧妙な演技。なんと8分に及んだロスタイムでのオーストラリアの猛攻も、老獪なイラン・イレブンの前には無力だった。

■勝つためにすべてのことをする精神力

あまりに露骨すぎて、かえって笑ってしまうほどのイランのプレーぶりに、ワールドカップ予選という過酷な現実の一面を見たような気がする。予選とは何が何でも勝つものだということを彼らの試合から学ぶようだ。

しかしイランは狡猾さだけでフランス行きを決めたわけではない。

何よりもまず、一人ひとりが十分にワールドクラスの実力の持ち主であること。そして絶望的な試合展開でも決してあきらめず「自分たちの時間」が訪れるのをじっと待っている。そして巡ってきたチャンスを見逃さず、最大限の力を発揮する強い精神力。こうしたすべてのことがワールドカップ予選には必要だということ、このときのイランチームは体現したと思う。

それに比べ、今回のテヘランのチームは洗練されていた。そして、いわば正々堂々と、日本と渡り合った。8年前とは違った顔を見せた今回のイラン代表と、8月に再戦するのをまた楽しみにしたい。(了)

IV. ディスカッション

残り時間も少なくなりましたが、フリーで意見交換や質問をしてください。

イランの右サイド

- ・今回ものすごくスマートだったと思うのと同時に、イランだなあと考えたのは、右サイドバックが攻撃的でいいんですね。78年のハッサン・ローシャンもそうだったし、マハダビキアももともとは右サイドバックでしたよね。
- ・92年アジアカップや93年ドーハの時のザリンチェもそうですね。伝統的に右が強いです。今回も右のカエビがどんどんあがってきました。カエビはまだ19歳ですから将来性があります。

イラン選手の海外移籍

- ・ドイツでプレーする選手が、特に増えましたよね。規律あるドイツのディシプリンというものを、チームに少なからず持ち込んでいるのではないかという想像をしてみると、スマートになったということにつながるんじゃないですかね。
- ・なぜドイツなんですかね？
- ・やっぱりダエイで評価が高まったっていうのもあると思いますよ。
- ・いまレザエイ（セリエAのメシーナ）くらいですよね、ドイツ以外の外国でやっているのは。

10万人のサポーター

- ・今回のあの10万人の大声援は誰かリーダーがいるんですかね？
- ・拡声器と笛を鳴らして、パスみたいのを持っている人が前のほうに何人かいました。協会の用意した人間間だと思います。そろいの白いユニフォームみたいのを着て指揮をとっていました。
- ・あと女性も何人かいましたね。記者席とVIP席が混じった状況で、VIPの家族とか女の子がいました。イランの女子チームも日本のゴール裏にいたみたいですね。危ないから。

イランの応援について

- ・メインスタンド、バックスタンド、ゴール裏でなんか温度差みたいのはありましたか？
- ・全部いっしょ！！
- ・ウェーブは超高速でしたね。なんであんなに速く回れるんだ！？
- ・試合に出ている宮本が日記に書くくらいですからね。

日本のサポーターの変化

- ・徳田さんは97年からこういうツアーの仕事をされてますよね？ その時と今のツアーの雰囲気ってなにか違いはありますか？
- ・違いますね、今は2002年のW杯以降にファンになった方とか、ドーハを知らない世代かいっぱいいますよ。ツアー参加者がみんな集まってるときに、(参加者の中の)長老の昔話を聞いて「あ〜そうなんだあ」という感じで聞き入る。昔はそんな世代の幅はなかったので、会話にそんな場面は無かったです。今は裾野(すその)が広くなり、世代ギャップも楽しくなって、長老のサポーターはそれを楽しみにツアーに参加するような雰囲気もあります。
- ・一番目立つのは母娘の2世代サポーターですね。
- ・父子ではなく母娘っていうのがすごいですね、親父と息子がどこでもスタンダードですからね。
- ・野球なんかは確かにそうですね。
- ・母と娘でアザディースタジアムってすごいですね。(笑)
- ・渋谷にいそうな娘がそのままのいでたちで飛行機に乗ってるのを見たりするとドキッとしますね、大丈夫かなこの娘って。サッカー観戦をしかも外国でそんなかっこうでいいのかと余計な心配をします。
- ・前回の韓日戦のツアーのとき、観戦ツアーの添乗員としては初めてツアーに参加するような女の子に気

をきかせたつもりで「あそこに福田（正博）がいるよ！」って教えてあげたら「それ、誰ですか？」って言われたのには驚きました。自分らのヒーローはすでに昔にひとになっていたのです。

最終予選の緊張感

- ・いろんな人が応援してくれるようになったのはすごくうれしいけど、最終予選の緊張感っていうかね、ほんとに俺たちが長いこと待ち望んでいた舞台だぞ、これでやっとあと少しでっていう究極の緊張感がなんか今回はまだ無いような気がしてて。
- ・あのイミグレーションから出てくるとこの映像がありましたよね、あれを見ててもそんなにみんなピリピリしているような感じはありませんよね。
- ・まあたぶんイラン、バーレーンと2発続けて負けていけばそうなったかもしれませんが。
- ・実際にこの前の北朝鮮戦に行ったんですけど、その時に隣にいたのが女子高生だったんですよね。ずっと試合中、メールをしているんですよ。もうなんか頭クラッときてしましまして。
- ・速報してたんじゃない？
- ・写メとか撮ってメールしてるんですよ、応援には来ないのか！と。僕たちは青アフロとか日の丸をかぶってたので、その隣で女子高生がずっとメールっていうその温度差が激しくてですね。あとゴール裏自体も昔に比べると声が出てないですよ。
- ・何十万人も申し込んでくればそういう風になるんだろうなって思いますよね。普段、見に行かないんでしょうね。普段そいつらがJリーグの試合を見に行ったら(客席が)いっぱいになるよって。
- ・試合が終わる前に帰っちゃう人がいっぱいいて、大黒のゴールを見ていない人がいっぱいいましたからね。
- ・それは埼玉スタジアムだからっていうのもありますよね。
- ・なぜ国立でやらない！って僕はいつも口を酸っぱくして言ってるんですけど。
- ・国立もきれいにしていますからね。背もたれもついたし。まだメインですけど。

昔と比べて

- ・昔、イランのピルズィって来たじゃないですか。国立で日産と試合をしたとき、僕はイラン人の中で見ていたんです。今日見たら同じですね。あのときは要所にリーダーがいたんです。その人たちが音頭をとってやっていたんです。で、イラン人の中にいたけど怖くありませんでした。やっぱり陽気で、日本人がいると冷やかしたり茶化したりするのが好きみたいです。今日のを見ても共通するものがありますね。

競技場について

- ・出口が小さくて少ないから、押し合いへしあいですごかった。人が亡くなったってあとでニュースで聞いたけど、当然だなんて思いました。ピョンヤンで試合をやるかでもめているのに、それ以前に人が死んでいるのに、なぜイランにペナルティを課すっていう話にならないのかが不思議です。僕が北朝鮮なら先にイランを何とかしろって言いますよ。
- ・人が亡くなったっていうのは事実ですよ。
- ・この場合は出口に殺到してですから、試合中ではなかったのと、相手に危害を加えようとしてやったことではないですよ。一方の北朝鮮の場合は、相手に詰め寄ったとか、審判を出さないとか、相手のサポーターを出さないとかになると、敵対感情的なものになると問題になると思います。
- ・日本なら、もし死んだらより、まず怪我したら大問題になるじゃないですか。ちょっとありえないですね。
- ・人が亡くなったことは（イランでは）一切報道されてなかったですね。日本のインターネットで知りましたから、向こうでは誰も知らなかったですね。

バーレーンとイランとの関係

- ・イラン協会の方が、バーレーンを行かせないためだったら、8月の日本戦は2軍を送ると語ったっていうのを聞いたんですけど、現場ではそういう空気はあったんですか？それだけバーレーンとは仲が悪いんですか？
- ・仲が悪いわけではないと思いますけど、僕が見た印象では、バーレーンより日本と一緒にW杯に行きたいというのはあると思いますよ。基本的に親日家が多い印象はありました。あとはいきなり出てきたバーレーンに対する警戒心がすごく強いですね。

イランと日本の関係

- ・イランに28年ぶりにJALの飛行機が飛んだっていう話がありましたけど、だいたい計算するとイラン革命(1979年)の前ですね。それまでは欧米一辺倒の体制で、革命を経て80年代はほとんどイラン・イラク戦争で疲弊しますよね。90年代になってやっときちんとしたナショナルチームができてきて、だいたい日本がJリーグが始まったころ、イランとの対戦が増えてきて、ダエイのようなスターが90年代の最初に出てきて、ここ15年っていう感じですね。いろんな波にもまれて今がある。

今回のイラン戦ツアー

- ・これだけアウェーの試合に来ちゃう国民は日本くらいですよ？
- ・まあ、ヨーロッパは別だよな、陸続きだし。
- ・ツアーは今回、いくらで設定されたんですか？
- ・だいたい16万円くらいですね、3泊5日とかで。ツアーで800人くらい、周りのイランの近くの日本人が約1000人で1800人ですよ。報道で200人くらい行っていますから、全部で2000人くらいですね。

イランへの渡航・ビザ

- ・今回のイランへの渡航のビザに7500円かかります。報道の人はもう少し高いですが、だいたい実数で1000人近く行ったから、750万円ガバツと儲かったのがイラン大使館なんじゃないですかね。
- ・ビザを1ヶ月前に頼んだのに3週間たってやっと出たんですよ。大使館も、今までにない数のビザの申請がきて、パニックだったんです。事務能力がないことにあの時気づくべきでしたね。

イラン人の大量入国

- ・イランが波にもまれていたころ、大量にイラン人が日本に来て、いろんな所で働いたり、新宿のあの辺とかのいろんな公園で暮らしていたりそういう状況ですね。
- ・ちょうど20年くらい前に、池袋近辺の公園でストリートサッカーをしていたら、イラン人が寄ってきて「おれらもまぜろ」と。でイラン人チームと5対5、8対8をしていました。めちゃめちゃ削られまくりました。足の裏を見せてくれって感じで。
- ・僕らも教員チームでやっていた頃に、あるクラブチームと試合をしたらイラン人がいて、削りまくるわけですよ。あの人だれ？って聞いたら、そのチームの人も知らなかった。
- ・最近いませんよね、イラン人。
- ・あの頃は、ビザが相互撤廃っていう、こっちもいらないからそっちもいらないみたいな感じで。いきなり増えたから取り締まったんですよ。僕もちょうど上野のほうの大学に行ってたけどすごかった。景色がいきなり変わって。偽造テレカを売ってたね。
- ・偽造テレカは最初から商売をしようとしたのではなくて、出稼ぎに来てたイラン人はファミリーを大切に作るから家族に電話をしたい。それでこうすればずっと話せるって考えて、それじゃあ商売しようかっていう流れなんです。

議論は続くが報告ここまで